

申 入 書

平成20年10月8日

総務大臣

鳩山 邦夫 様

和歌山市長 大橋 建一

10月4日付けの朝日新聞によりますと、大臣は「和歌山に行かなくてもヒ素入り穀物」と述べられたと報道されています。

昨今の食糧問題に触れるなかで発言されたものと思いますが、和歌山市において発生したカレーへの毒物混入事件は、4名の尊い命が奪われ、63名の方が急性ヒ素中毒に見舞われるなど、甚大な被害を地域住民にもたらした悲惨な事件であり、この発言は、被害者の方々や地域住民の方々に対する配慮に欠ける不適切なものであると言わざるを得ません。

被害者の方々は、事件から10年が経った現在も、未だ多くの方が急性ヒ素中毒の後遺症に苦しみ、また、地元自治会での夏祭りで突然事件に巻き込まれた心的外傷による影響を残しながらも、懸命に日々の生活を営まれ、かつ、地域の再活性化に取り組んでおられます。

また、大臣の発言は和歌山にはヒ素入り穀物があるというような誤解を招きかねない表現であると言えます。

和歌山市民にとって大臣の発言は非常に遺憾であり、二度とかかる発言のないよう申し入れるものです。

平成20年10月9日

和歌山市長 大橋建一様

和歌山市民のみなさま

10年前、和歌山市において発生したカレーへの毒物混入事件において、亡くなられた4名の皆様のご冥福をお祈りするとともに、いまもなお、急性ヒ素中毒の後遺症などに苦しんでおられる被害者の皆様に謹んでお見舞い申し上げたいと存じます。

佐賀県で開催された会合における私の発言で、皆様方に不愉快な思いを抱かせたことに、お詫び申し上げます。

国民の皆様が安心していきいきと暮らせる地域づくりを実現するのが、政治家として、総務大臣として、私に課せられた使命であると考えています。

あらためて、深くお詫びするとともに、地域の安心安全の確保に向けて、今後とも全力を尽くしてまいりますことをお誓い申し上げます。

総務大臣

鳩山 邦夫